

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

言語コミュニケーション文化研究科	
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2013年度を目標に言語文化学(東アジア)プログラムを開設する。	→東アジアプログラムの開設、履修者数。	A	A			
2. 2008年度に新設した日本語教育プログラムを充実させる。	→日本語教育プログラムの改訂、履修者数。	A	A			
3. 2013年度を目標に、外国人留学生を対象にした英語のみで修了できるコースを設置する。	→英語のみで受講できる学習支援方法の開発。	A	B			
4. 社会人学生に対する学習支援方法を開発、適用する。	→指導体制の充実化、社会人対象のプログラムの実施。	B	A			
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 各領域が求める教育目標が達成できるように授業科目を開設し、メインメニューだけでなく、サイドメニューも充実した教育課程を体系的に提供した。これまでの教育課程をより充実させるために、日本語教育学領域には7つの研究コースを新設、全体で9つの授業科目を増設した。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 各領域の専門性を中心に教育課程を編成し、学生に提供している。言語文化学(東アジア)プログラムの新設に伴って、運用能力養成科目を3つ、領域研究科目を2つ新設した。日本教育学領域の再編に伴って、領域研究科目を4つ増設した。これまで以上に、充実しなおかつ教育方針に相応しい教育内容を提供している。
その他	

《評価指標データ》

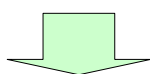
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	言語文化学（東アジア）プログラムの新設に伴って、中国語論文作成、中国語読解、中国語コミュニケーション、東アジア文化学特殊講義AとBを新設した。また、日本語教育学領域の再編に伴って、日本語教育研究I（翻訳論）、日本語教育研究J（日本語と中国語の翻訳研究）、日本語教育研究K（英語と日本語の翻訳研究）、日本語教育L（日本語調査・分析法）を増設した。院生の専門知識が明らかに幅広くなり、思考力や分析力も入学時に比べて顕著に増加。学会や研究会での発表（38名）にもそれが投射されている。
小項目6.2.2	専門分野の高度化に対応するため、言語文化学（東アジア）プログラムや再編した日本教育学領域をスタートさせ、それに相応しい教育内容を提供するために、既存の授業科目を生かした上で、9つの授業科目の新設や増設を行った。
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	領域研究科目を見直し、よりわかりやすい形での体系化をめざす。
小項目6.2.2	各領域間の関連性を中心に、メインメニューとサイドメニューの関係を点検する。教育課程を体系的に編成するだけでなく、学生の履修する科目も体系性を持たせるようにする。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
小項目6.2.2	言語教育学という領域は、領域研究科目名が曖昧であるため、入学希望者にはわかりにくい面がある。それを改善するために、科目名を含め、授業科目の構成などについて再検討し、よりわかりやすいプログラムにする必要がある。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
小項目6.2.2	検討委員会を立ち上げ、一年かけて、言語教育学プログラムについて、科目名や授業科目の構成について検討する。2013年度から新しいプログラムが立ち上げられるように、インフラ整備を行う。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他 (自由記述)	
---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○大項目6全体を通じて言えることですが、記述が具体的でわかりやすく、問題点の分析も明快です。今後の進展が期待されます。

【学内委員】

○外国人留学生を対象にした英語のみで修了できるコースの設置についてですが、進捗評価が「A」から「B」に変わっていますが、「A」は目標を達成かほぼ達成したものであり、達成したものが「B」にランク落ちするのは論理的にありえないと思われます。なぜ「B」になったのか、データも含めて具体的に記述されることが望まれます。

○目標達成に向け着実に進展しているものと評価します。

○各領域が求める教育目標が達成できるように授業科目を開設し、メインメニューだけでなく、サイドメニューも充実した教育課程を体系的に提供されていることを評価します。なお、メインメニュー、サイドメニューといった表現はHPにも反映されているのでしょうか。

○全体を通じて丁寧で誠実な記述です。また、教育課程についての改善が進んでいることが伺えます。

○昨年度、改善方策として掲げられた4月入学・9月入学の授業科目配置、英語のみで受講できる授業科目の新設、の動向はいかがでしょうか。記述からはわかりませんでした。これらを記述することでPDCAサイクルが機能しているか確認することが出来ます。

○設定されている目標は、進捗状況が「A」のものが多く、すでに目標を達成しています。より具体的で中期的な目標をお考えください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 「外国人留学生を対象にした英語のみで修了できるコースの設置についてですが、進捗評価が「A」から「B」に変わっていますが、「A」は目標を達成かほぼ達成したものであり、達成したものが「B」にランク落ちするのは論理的にありえないと思われます。なぜ「B」になったのか、データも含めて具体的に記述されることが望まれます。」というご指摘があったが、英語のみで修了できるコースは設置したが、現在まではまだ在学生がいないため、Bにしています。